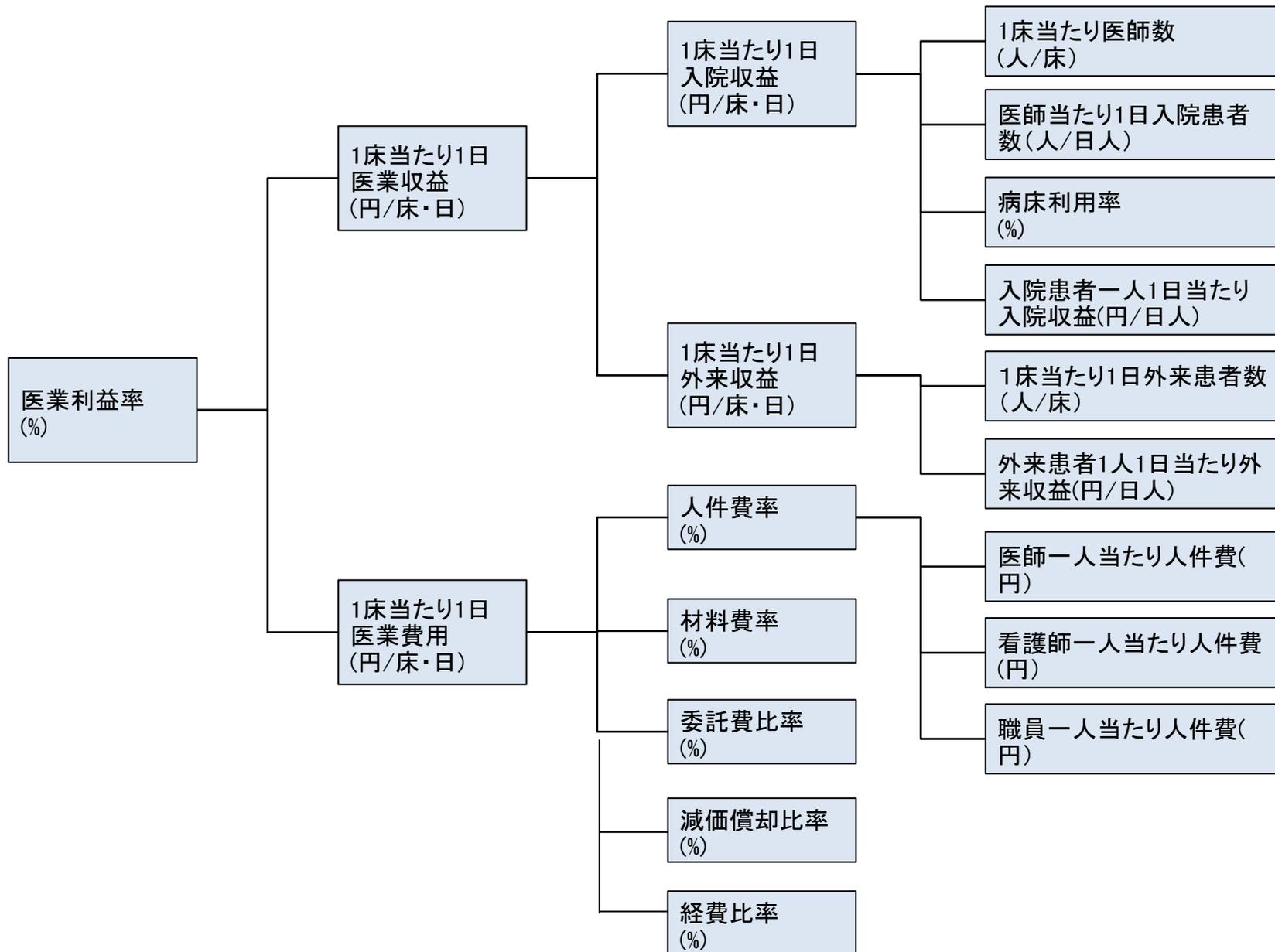
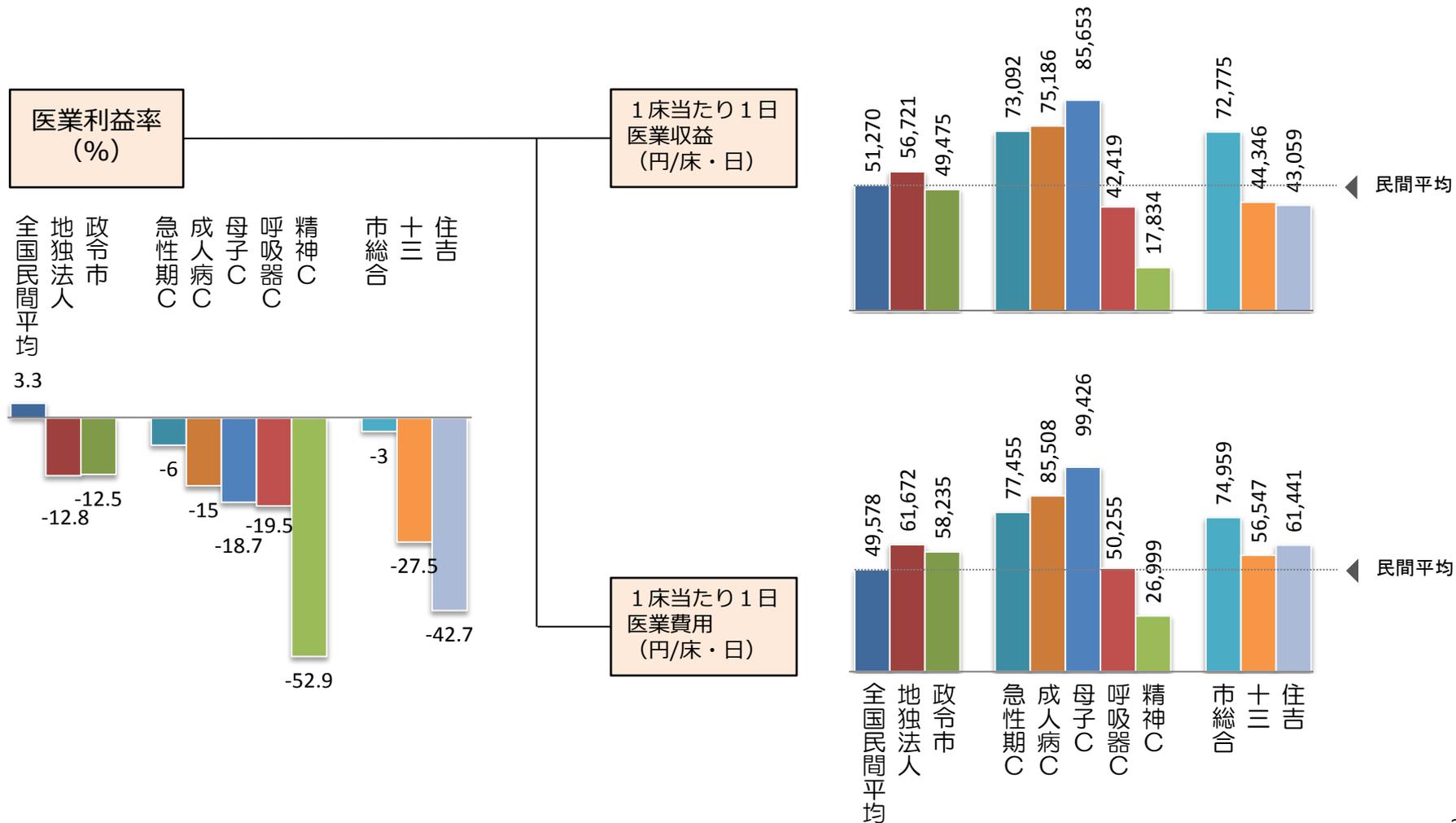


大阪の府・市立病院の経営課題

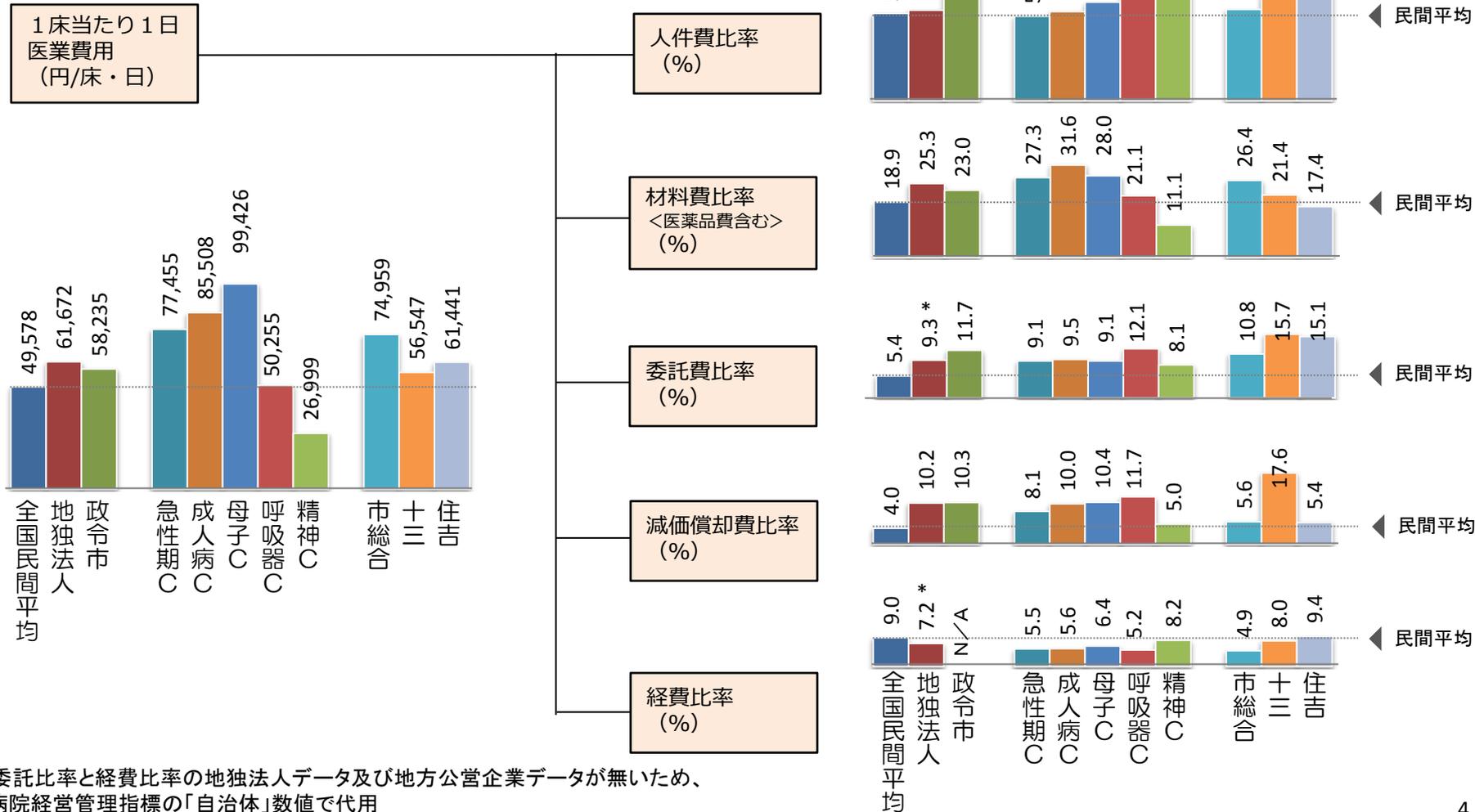
平成24年11月16日



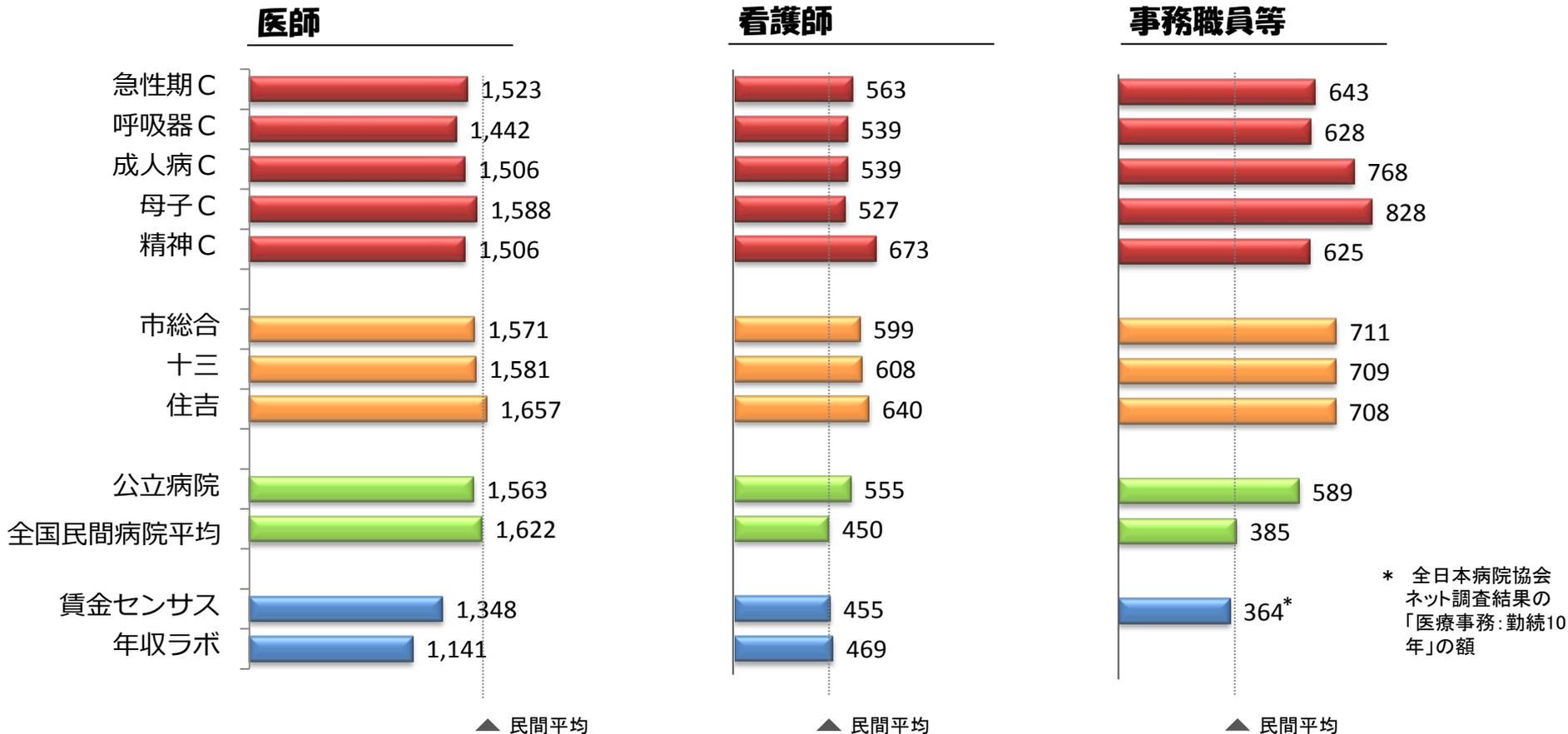
- 医業利益に関しては全病院が赤字。(特に精神C、十三、住吉)
- 急性期C、成人病C、母子C、市総合の医業収益は全国平均を上回るが、コストが高い。



- 人件費、委託費の高さが医業費用を押し上げている要因である。
- 急性期C、成人病C、母子C、市総合の材料費比率が高い。
- 材料費比率は、総じて府の方が市よりも高い
- 委託費比率は、特に市の方が府よりも高い。



➤ 公表データとの比較では、各職種の年収が、府・市ともに高い。

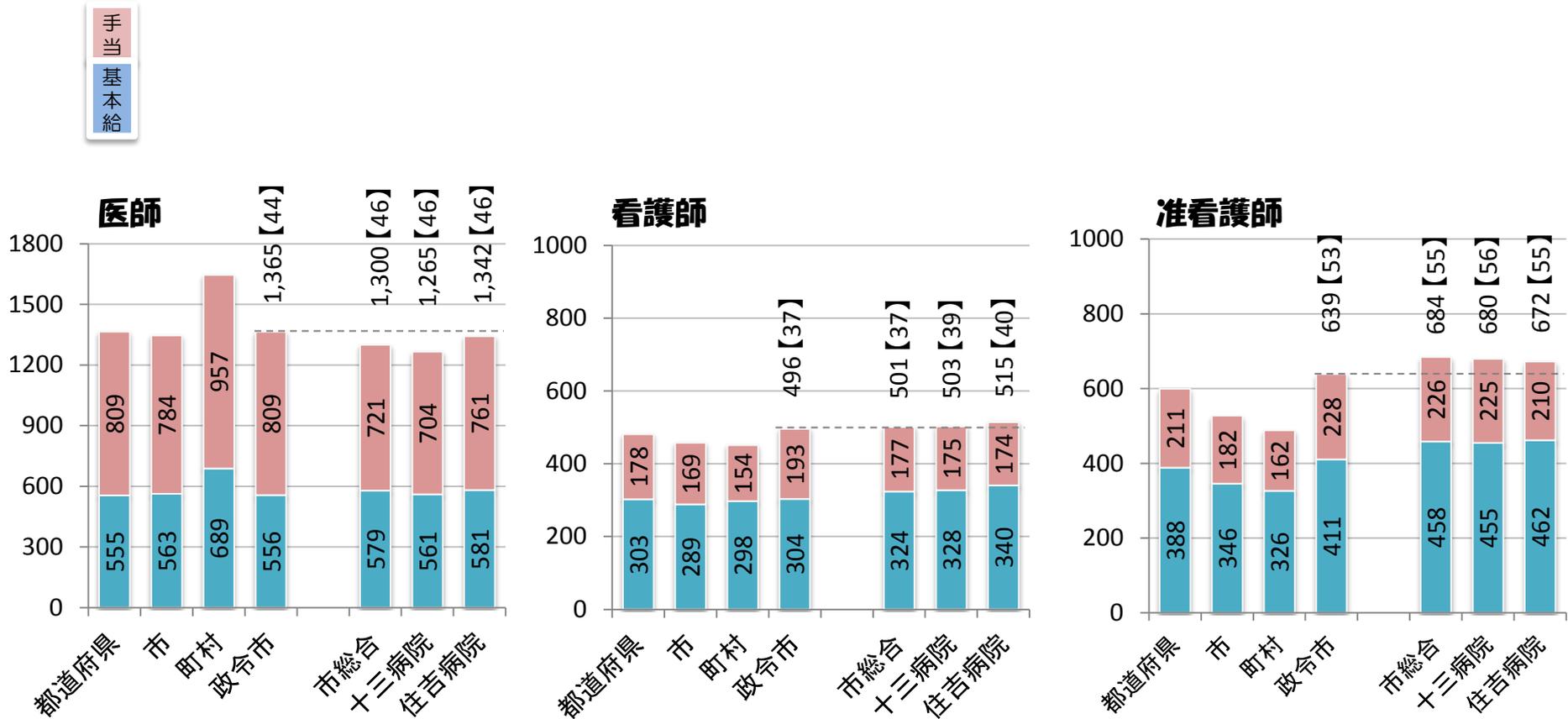


* 全日本病院協会
ネット調査結果の
「医療事務:勤続10
年」の額

<データの内訳>

- 【府立、市立】 各該当職種の、給与(賞与含む)総額/総職員数。看護師の府は非常勤を含むが、市は含まない(平成23年度実績)
府立の成人病Cと母子Cの事務職員には研究職を含む
- 【公立病院、医療法人】 医療経済実態調査の一般病院・常勤職員集計(中央社会保険医療協議会。平成23年6月実績)
- 【賃金センサス】 平成23年賃金構造基本調査(100~199人の企業規模)
- 【年収ラボ】 職業別の年収比較ウェブページ(元データは厚労省の抽出調査で平成22年度実績。医療機関の規模考慮なし)

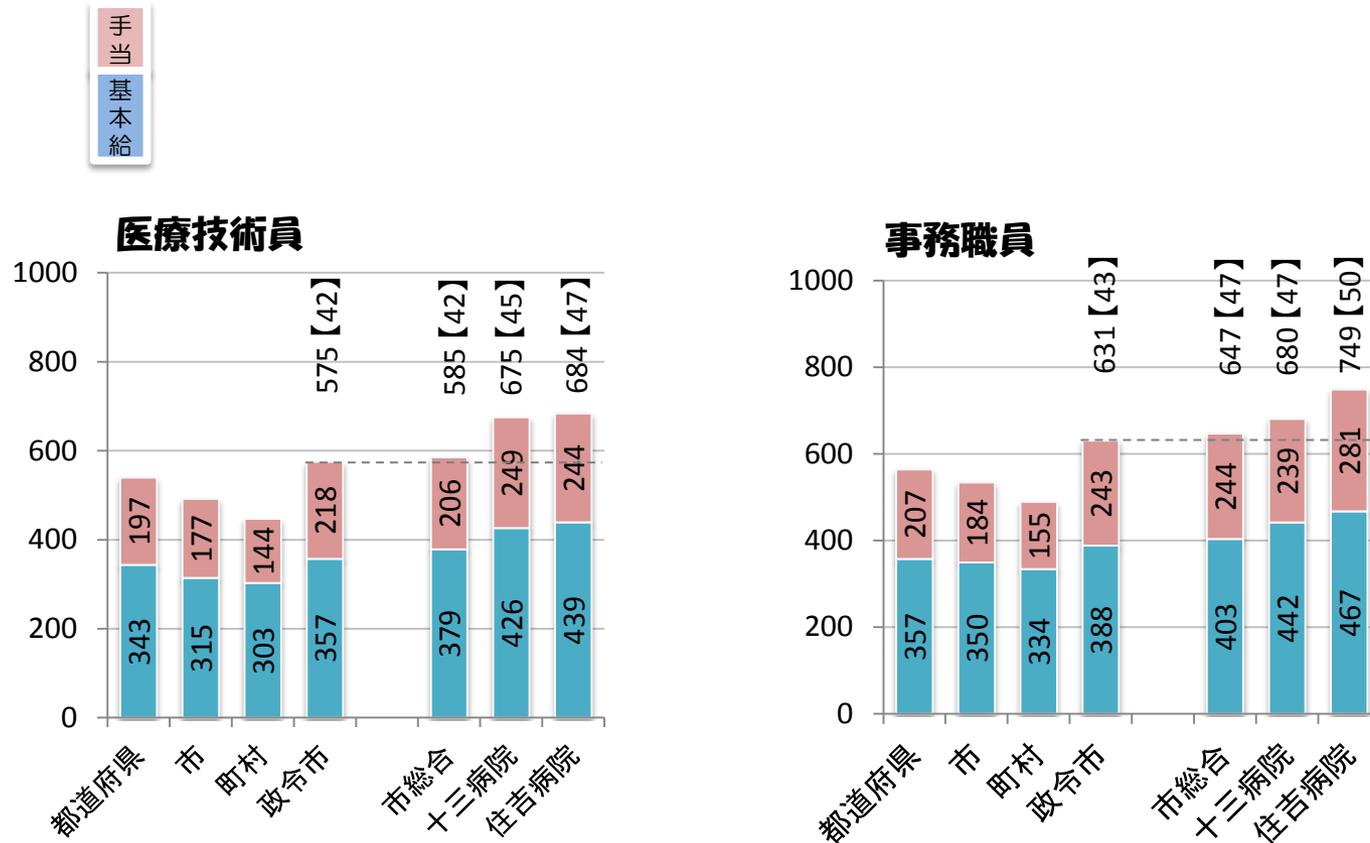
- 公的病院(公営企業)の中でも、政令市は全体に人件費が高い。
- 市は医師給与が低い一方で、准看護師の給与が高く、基本給が高いのも特徴。



出典) 地方公営企業年鑑 平成22年度決算

- ・手当内訳: 時間外勤務、特殊勤務、期末勤勉、その他
- ・【 】内は平均年齢

市は医療技術員や事務職員の給与が、基本給、手当とも高い。



出典) 地方公営企業年鑑 平成22年度決算

- ・手当内訳: 時間外勤務、特殊勤務、期末勤勉、その他
- ・【 】内は平均年齢